藤枝東高の指標の一つ

教頭　森　茂巳

大和島根に寄せ返す
文化の潮身にうけて
重き使命に醒めて立つ
健児吾等瞳ぞ映ゆる

志太・榛原学区より榛南地区を除いて人口三十四万、当該学齢生徒五千の中から、大学進学の夢を抱いて三百三十有余の中学生が毎年ここ千南原に来り三年の歳月の後、それぞれの道を進んでいきます。知育・体育・徳育と云われますが五十有余年の歴史が有形・無形に生徒をささえ現在県内では進学面では五指に挙げられて居ります。体育面では、最近は少し不振ですが、サッカーの藤枝東の名を維持すべく努力しています。その他昨年度はバスケット部のインターハイ初出場、陸上の東海大会出場のほか県大会には殆ど出場がなかったサッカー以外の運動部が多数参加しその充実ぶりを示してくれました。徳育の面は、表面にはっきり現われてはいませんが志太・榛原地区の中心校としての伝統は地域の信頼となって守られてきていると確信しています。さて高校の教育が国家及び社会の有為な形成者の育成を目指すことは冒頭の校歌の示すところでありますが、現実に地域社会の要望に答えて藤枝東高の進むべき方向をいろいろな面から考えてゆかなければならないわけです。諸要因必ずしも同時に実現実行が可能とも思われませんので、まずはじめに進学関係からいき、次に体育関係、さらに徳育関係と進む順序になりますが、今回は紙数の関係から第一段階だけ書きます。

進学希望者九十九%以上の現実の中で五指に入る状態で満足出来るかどうかという問題です。最近の人口の流動の様子をみてみますと、本県の通学区別の人口は次のようになります。賀茂十万、三島・田方三十九万、沼津・駿東三十七万、富士三十三万、清水二十七万、静岡四十五万、志榛四十二万、小笠十五万、磐田・周智二十六万、浜松六十八万となっています。それぞれの地区に、旧制中学の流れをくむ高校があります。下田北（豆陽中）、沼津東（沼津中）、富士（富士中）、清水東（庵原中）、静岡（静岡中）、藤枝東・榛原（志太中・榛原中）、掛川西（掛川中）、磐田南（見付中）、浜松北・浜松西（浜松一中・浜松二中）です。実際面からいくと志太・榛原は二校ですから、前述のように本校のバックグラウンドは三十四万と策定されます。また三島・田方地方は、熱海・伊東方面が東京・神奈川に流出する傾向があります。このことから、基盤として、五指ではという感じがします。ちなみに国立大学進学を例にとってみますと日本の人口一億一千、毎年の国立大学定員八万の比率からいくと人口一万に対して七・二人となりますから、本学区では現役・浪人を合せて二百四十五が単純計算で出て来ます。それでは本校は昭和五十四年度百六十四今までにない成績ですが十分と云えるでしょうか。受験産業各社の示すように各大学・学部に難易度があり、その内容を含めて検討しても第一目標として二百をとってもよいと推測されますので、この実現を一つの指標として頑張りたいと考えています。さらに公立・私立大学の定員を考慮に入れますと別掲の合格状況の向上は期待出来ると思われます。

協力しよう藤枝東高同窓会活動

同窓会副会長　大石鉄郎

先輩達と一緒に同窓会基金を貰いに行くと、「今日は良く来てくれました。本当に御苦労様です。どうぞ」とすぐ出してくれる人、一言意見を述べて出してくれる人、仕方なくしぶしぶ出してくれる人、モハメッドアリがリングに上って来て相手を睨みつけるような態度の人、世はまさに様々である。この四つのタイプの内前二者が志太中、志太高時代の人に多く、後の二者が藤枝東高時代になっての中に多い。勿論すべてがこうではなく、志太中時代の人にモハメッドアリも居れば、藤枝東高時代にも気持良く出してくれる人もかなり居る。基金を貰って丁重に礼を言うと、「お前に寄付したんじゃないぞ」と云われる人もいる。

気を遣うな」とこちらの気持にねぎらいの言葉を掛けてくれる人の暖かい心がジーンと胸に伝わってくる。今一千数百万円の同窓会基金が集まったが、主に志太高・志太中当時の人々の寄付であり、藤枝東高卒業のそれは何分の一かである。卒業生の数はその逆で、志太中・志太高は全卒業生の四分の一にすぎない。藤枝東高時の卒業生として恥ずかしい限りである。いや寄付金の額が少ないと恥じているのではない、同窓会への参加意識の低さを恥じているのである。友人の一人が金を集めるだけで良いのか？　一言檄を飛ばせば、同窓会全体が一致団結して事に当る、そんな同窓会でなければなあ、と思った。今、藤枝東高校と云えば県内は勿論、全国にも冠たる高校である。その同窓会の若手が、血気盛んであり、爆発的エネルギーを持つ年代が、心のコミュニケーションの場であるべきはずの同窓会に参加意識を持たない事は誠に情けなく恥ずかしい限りと思わずにはいられない。世間的に藤枝東高より低いレベルであると云われる高校でも、また紳士ぶって乙にすました気風の高校でも、同窓会活動はより意気盛んであり、学校に対して圧力を加える程である。時代や建物が変っても藤枝東高校は我々の心の故郷であり、ノスタルジアを感じさせる心の触れ合いの場であり、何よりも我々の誇りである事に異議はないであろう。その母校の同窓会に参加意識を持たず、身構えた姿になり、同窓会基金を立派な社会的収入がありながら、しかもたいした金額でもないのに出し渋るという事はどういう事であろうか？　エゴと批判だけの気の毒な群像であり、その心は砂漠の如く荒涼としたものだろう。また自分でそれを気付かずに居る、人間社会に巣喰うエゴと心の病に犯されてしまっている。藤枝東高で勉強させてもらい今日の自分がある事など忘れてしまっている。尊い税金である県費を使った事を。これではいけない。今公立高と私立高では卒業迄に百万円以上の出費の違いがあるという。寄付金など安いものではないか。

志太中・志太高当時の先輩達と基金を集めに伺って、種々教えて頂いた。皆和気あいあいの内に同窓会に協力して下さり気持の良い寄付を頂いた。心から感謝すると共に、我々藤枝東高の卒業生も先輩を見習い同窓会に参加して、心の触れ合いと人間形成に努め、藤枝東高同窓会を斯界に冠たる磐石なものにしようではないか。

旧生徒集会場の面影を残す卓球場

続々集まる同窓会基金寄付

1,400万円に迫る

校旗

寄付者一覧（昭和54年1月～4月受付分）

【10万円】
4回　江島祐二
15回　村松賢三

【5万円】
2回　実方弥一
5回　石川二郎

【3万円】
7回　伊藤正之
8回　興津達朗
10回　大塚麻雄
26回　鈴木康弘

【2万円】
15回　佐藤基道
25回　伊澤三蔵
28回　臼井太衛

【1万円】
1回　池谷保　法月六
2回　池谷悦郎　山田正雄
3回　浅井正　大野彦勝
5回　藁品栄　秋山和男
　小山周一
6回　吉田平一　加藤良一
　法月利一　原崎敬次
7回　髙富味津雄　森西定雄
　伊久美謹爾　相田好士
8回　中村粲義
10回　有光駿一
11回　松永信夫
12回　増井政夫
14回　加藤治之　金原晃
15回　大塚京平　海野金雄
16回　小泉保
17回　浅羽康平
18回　杉本義男　鈴木隆
　近藤誠　山田茂
　杉山宏　近藤鉱太郎
　森本義雄
20回　鈴木志正　鈴木豪
22回　八木松男
23回　藤江稔　河合正
　阿部恒保
25回　池谷昌己　河合文雄
26回　青島秀夫　池谷純二
　奥村宏　後藤隆
　鈴木英雄　長房義郎
　梅原宏　本橋光太郎
27回　鈴木保郎
28回　遠藤完
29回　杉村功二　渡辺篤司
　丸杉隆一　小林鉄兵
　堀江由浩　島津武芳
32回　鈴木肇
40回　伊藤正見

【6千円】
1回　山内二郎
2回　杉本秀雄
3回　田中猛　青島栄
4回　眞杉貞一
9回　川村満
13回　内藤隆二
16回　松本昭治
17回　大畑一夫
18回　薮崎辰雄　池谷正夫
19回　県喜七
20回　八木八郎
25回　金原令次
26回　岡田豊次　大坂比沙子
　池谷丹宏　池谷俊昭
　植松芳雄　梅原正行
　浦田和昌　大石千加士
　石田淑夫　岡谷繁
　長田恆幸　村松喜代士
　川上昭　桜井憲志
　栗田宏　紅林正志
　佐塚悦郎　長谷川隆司
　渋垂滋　杉本達夫
　鈴木英雄　田中文雄
　長房寛　長谷川平之助
　平木俊吉　増田克巳
　増井恵二　増田光男
　増田嘉彦　松永宏
　森剛一　多々良俊夫
　北原吉彦　戸塚伸次郎
　富岡隆　松永洋二
28回　堀田博道　松村俊三
29回　岡村俊郎
34回　山下泰宏

【5千円】
1回　杉本敏夫
10回　小島淳司
15回　早川道雄
20回　矢部欽三郎
25回　小沢真澄　原川勇雄
26回　石川英夫

【4千円】
18回　加藤泰朗　山崎圭一

【3千円】
23回　大畑勝臣
29回　金原敏郎

【2千円】
23回　大石弘
49回　松本美智子
51回　松本昌也
52回　53年度卒業生
　2,000×336名＝672,000

部活動ますます活発化

ブラスバンド部定期演奏会

現在「部」の数23（文化13＋運動13）。昨年度はバスケット・サッカーが県優勝を成し遂げたが本年度はどうであろうか。年々新入生の運動部加入率は高まっており、恐らく今年度は昨年（61%）を上回るものと思われる。彼等にかける各部の期待も大きい。前述のバスケットは県大会出場を、サッカー部は勿論高校総体優勝をめざして桜井・杉本の両エースを中心に日夜猛練習を重ねている。昨年好成績のバレーも県ベスト8位を、野球は投打の中心・清水の出来如何で四回戦以上をねらう。例年、中部上位に食い込むバドミントン・柔道・剣道・弓道・卓球も県大会出場を窺っている。これに反しやや停滞気味の文化部ーブラスバンド・生物・美術は例年部員も多く対外活動も活発であるがーにとって六月の文化祭は一つの大きな試金石となるであろう。

蔵書二万三千部に

—充実する図書館—

学校創立五年目に竣工した旧講堂が現図書館である。講堂改造のため他校のものに比べてスペースが広く三十余の書架に二万三千余冊の蔵書がぎっしりと並んでいる。

文学関係の書物が全体の三十一%を占め、以下歴史・自然科学関係となっているが、科学関係のものが若干少ない。生徒が読書する閲覧室の他に司書室、雑誌閲覧室、作業室、書庫などがあり、戦前、戦後の書籍は書庫に収められている。また卒業生の文学者小川国夫氏のコーナーが設けられている。卓球場（旧生徒集会場）とともに志太中時代の面影をとどめている懐かしい建物で、一日百名近い生徒が研究に読書に利用している。

尋ね人

同窓会員の消息を

昭和四十八年二月に同窓会員名簿が発行されてから六年、そろそろ新しい名簿の発行を望む声があがってきました。事務局ではそうした要望に応えて、各回・各支部の方々にお願いして、同窓会員の消息を調査しています。つぎの方々の消息が不明ですので、ご存じの方は事務局までご一報下さい。

一回生　桜井乾三・長谷川平一
二回生　池谷勲・井口英也
　小沢金蔵・染葉武彦
　船戸公雄・杉山恵一郎
　松浦春吉
三回生　髙橋良平・長尾一雄
　長谷川輝次・八木素正
　井戸吉次
四回生　桜井恭平・桜井清次
　清水邦治・鈴木地平
　寺岡喜一・塚本昂逸
　樋川経三
五回生　石原武・望月淳
　岡野京一郎・酒井正司
　増田健二・宮田実
六回生　良知勇
　大石実・浅山徹
　五十嵐正・石上喜久男
　高藤賢二・甲賀辰夫
　川村三郎・四之宮英夫
　杉本能雄・仲野清一
　増田芳治・松井優
　松本三好・水谷貞雄
　渡辺岩崎昇
七回生　大隅慶三・河原崎正蔵
　鈴木条之・八木弘
　山崎毅・山田慎吾
　山中正

◆編集後記◆

昭和五十二年度より始まった同窓会基金募集の活動もようやく軌道に乗ってきました。この活動を契機に各支部・各期毎の活動も益々活発になってきました。今回も同窓会基金募集の記事を中心に編集しました。

昭和五十四年度を迎え、母校に第十三代の校長三浦孝一先生をお迎えしましたので、着任のご挨拶をいただきました。

さらに今回から連載で恩師のよりを掲載することにしました。恩師の方々のなつかしいお便りに接し、同窓生一同懐旧の情を禁じえません。また事務局では新しい同窓会員名簿の発行準備にとりかかりました。会報に「尋ね人」欄を設けて、同窓生の消息を確実に把握したいと思っています。どうか同窓会員の方々のご協力をお願いいたします。

（事務局）